






富士見丘小学校 の人権教育 情報モラル教育

情報社会において適正で安全な活動を行うための 基になる考え方と態度の育成 ～令和3年度～

情報社会に積極的に参画する態度を育てることは喫緊の課題です。とりわけ、1人1台のタブレットが導入されたことから、本校では、人権教育との関連において、情報社会の光と影の部分を正しく理解し、情報手段を賢く使うための判断力や心構えを身に付ける指導に力を入れています。

Step 1	
▶ 情報社会の倫理 R3. 7. 14 発信する情報や自他の権利を尊重する	1 年生
<p>先生が「今日は、タブレットを上手に使うためのルールをみんなで考えます」と言うと、いっせいに子供たちが「もう使えるよ」「上手だよ」と言って自信満々。でも、本校の「タブレットの約束」を確認しながら、みんなで意見交換していくと理解の甘さに気付きます。授業の最後にはテストを実施。</p> <p>発信する情報や情報社会での行動に責任をもつ第一歩として 「約束やきまりを守ること」 「相手への影響を考えること」 などを学びました。</p>	
▶ 法の理解と遵守 R3. 7. 13 情報社会でのルールやマナーを遵守する	2 年生
<p>生活科「町が大好き たんけんたい」の学習を振り返りながら、人や地域との関わり方について学んでいました。</p> <p>SNS 東京ノートを活用して、自分が言われて「あまりうれしくない言葉」や「うれしい言葉」は、人によって違うということに気付きました。</p> <p>図工の作品をマネしていいか? の質問に、子供たちは迷いに迷って、ちゃんとお友達に言って「いいよと言われたら、参考にしてもOK」という結論を導き出しました。</p>	
Step 2	
▶ 安全への知恵 R3. 7. 15 情報社会の危険から身を守る	3 年生
<p>1組では、タブレットの上手な使い方について話し合っていました。タブレットを家に持ち帰るようになった時、活用範囲が広がります。どんなことに注意して、どのように有効活用できるのか、みんなで知恵を出し合っています。</p> <p>2組では、はじめに Form を使って、一人一人にアンケートをとりました。家庭での平均使用時間は、30分以内から数時間まで千差万別。すでにネット依存のようになって制止が効かない子供もいます。</p>	
▶ 安全への知恵 R3. 7. 15 情報を正しく安全に利用する	4 年生
<p>「ゲームに熱くなりすぎると」「むやみにタップしてはダメ」「送った写真のゆくえは・・・」という動画を、一つ一つ視聴して、その都度、約束を守る、時間を守る、自分の安全や健康を守ろうとするなど、意見を交流しました。</p> <p>子供たちに問題点を問うと、すごい勢いで次々と課題を指摘していました。他人事ではなく、子供たちにとって、まさに身近な問題であり、ネットの楽しさと恐怖が常に背中合わせだということがよくわかりました。</p>	
Step 3	
▶ 情報セキュリティー R3. 7. 14 情報セキュリティーの基本を知る	5 年生
<p>5年生の道徳の授業です。「おさむさんが、ゆずるさんの個人情報を使ってゲームのキャラクターを作り、ネットに流していました」…、その考え方と危険性について活発に議論し自律的で責任のある行動について考えを深めていました。</p> <p>子供たち自身が様々な経験を繰り返しており、いつも危険と隣り合わせを実感していました。</p> <p>認証の重要性を理解し、不正使用や不正アクセスされないよう利用するなど、情報の破壊や流出を守る方法を学びました。</p>	
▶ 公共的なネットワーク社会の構築 R3. 7. 15 情報社会の一員としての意識をもつ	6 年生
<p>6年生の情報モラル授業。動画「思ったままに SNS に送信しただけなのに」では、ケーキを食べて「期待していたのにショック #最近の残念なお店」というコメントとともに、お店の店名の入ったチラシとケーキを SNS で発信していました。子供たちの議論は白熱し、単純には判断できません。それを見て不快に思う人がいる情報は、発信しない方がいい、自分の考えではなく、相手のことを思うことが重要、という考えに至りました。</p>	